



記事○「職員の安全教育に関する研修会」を開催

○「職員の安全教育に関する研修会」を開催しました

去る11月26日(水)にエッサム神田ホール5階会議室において、J R 東日本(株)の渡利千春執行役員安全企画部長を講師として「職員の安全教育に関する研修会」を開催しました。研修会には、当協会の理事である東葉高速鉄道(株)の金子栄常務取締役を始め会員18社局の31名が参加し、渡利講師の講演を基に、予定時間を大幅に超過する熱心な討議が行われました。

◆J R 東日本の安全への取組(講義)

始めに、渡利講師から「J R 東日本の『第6次安全5カ年計画』と安全の現状」と題した講演がありました。J R 東日本が平成26年3月に策定した、新たな安全5カ年計画に盛り込まれた内容を解説したパワーポイントの映像を用いて、安全への取組を分かり易くかつ詳細に講義していただきました。



冒頭「安全とは、一時的に発生している不自然な状態(何もしなければ『危険』なのが自然の状態)」として、安全を保つ努力の重要さとその困難なことを示され、講義の中では、平成26年2月23日に発生した京浜東北線川崎駅構内での脱線事故の実例も踏まえ、繰り返して発生している同様の



の事象を完封するための取組みも紹介頂きました。その中で、「指差喚呼等の基本動作」を確実に実施すること、情報伝達での相互の思い込みを排除する「確認会話」を行うことなど、ヒューマンエラーを少なくする取組みの重要性とそれらに「愚直に取り組む」姿勢が事故を減らす上で大切なことなどが紹介されました。

◆車座になったのディスカッション

講義終了後、参加者全員でのディスカッションの時間が設けられました。これは、渡利講師からの「一方通行の講義だけでなく、日々安全と取り組んでいる受講者と双方向の情報交換の場を設け、安全問題を話し合いたい」との要請を受けたもので、会議室の後ろ半分の机を撤去し椅子を丸く並べ、講師も参加者も文字通り車座になったの話し合いが行われ、渡利講師の意図された情報交換を極めてスムーズに実現することができました。



参加者からの発議で、講演の中で触れられた「指差喚呼」が、形式だけで安全につながらない場合があるとき、どのように指導すべきかという、安全の最も基本の課題を中心に討論が行われました。各参加者からは、同様の課題を抱えていること、インセンティブを与えることで実績の上がった例の紹介、形だけでなく何のために行うかを教えることの大切さなど、お互いの経験を

踏まえた話し合いが行われました。車座であるため、講師と受講者との間だけでなく参加者相互で膝つき合わせての熱のこもったディスカッションが行われました。

◆大阪市交通局の研修施設「輸送の生命館」の紹介

最後に、大阪市交通局安全監査担当課長の松下晃様から、平成25年7月にオープンした大阪市交通局の研修施設である「輸送の生命館」について、実際の研修で使われている「研修ノート」を資料にしてご紹介いただきました。

施設は、事故現場で実際に使われていた機器等を展示した「過去の事故等を学ぶゾーン」を始め「基本動作や各種設備の取り扱いを学ぶゾーン」「メンテナンスの重要性を学ぶゾーン」等、5つのゾーンで構成されており、高い安全意識を身につけることを目的にしているとのことでした。大阪市交通局では、職員全員の研修受講を義務づけており、オープン以来約半年で全職員が既に受講し、現在2巡目のより高度な研修に入っているとのことでした。



大阪市交通局

◆終わりに

今回の研修会で、初めて取り入れたディスカッションの時間では、参加者全員が熱心に議論に加わり、予定時間を大幅に超過してしまい、予め参加の皆さんに提示していたテーマについての討論が行えないという面もありましたが、参加者の皆様のお陰で有意義な研修会となったと思われます。

✦ お知らせ ✦

日本地下鉄協会ホームページに新しい資料を追加しました!!

【SUBWAY】に「2014.11月号(203号)」を新しく追加しました。

【会員だより】も各社局の情報をリアルタイムで提供しています。

ぜひ、ご覧下さい。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jametro.or.jp